

Nishiaizu

広報にしあいづ

平成
30年
3月号

March. 2018 No.713



歌声、響く

— 第28回西会津雪国まつり・ホワイトステージから —

もくじ — Contents —

P 2 特集 全国に誇れる菌床キノコの産地へ

P 6 第28回西会津雪国まつりフォトギャラリー

P 10 まちの話題

沖縄県大宜味村児童生徒との冬季交流、駒沢女子大学の学生が
除雪ボランティア、文化財防火デー合同消防訓練 ほか

P 14 町からのお知らせ&ニュース

次期「総合計画」の検討作業がスタート

全国に誇れる

特集

菌床キノコの産地へ



「形・厚さ・大きさ」全国基準の品質

「富士ソフト企画・西会津しいたけファーム」が生産した菌床シイタケが、全国で2,000人以上の生産者が加盟する「全国サンマッシュ生産協議会」の全国大会で3年連続金賞となり、特別賞の最上位となる賞を受賞しました。また、同大会では、ほかにも町内の生産者が入賞しています。

町内産のキノコは、こうした全国規模の品評会でも高く評価され、県内のスーパーや首都圏の市場から多くの出荷要望が寄せられています。こうした要望に対応できる生産量にするため、生産規模の拡大が喫緊の課題となっています。

写真＝西会津しいたけファームでの菌床シイタケ栽培の様子。奥が事業所を取り仕切る高久一志さん。



菌床培養施設を整備して 品質向上・収量安定

培養とは、菌床シイタケ生産工程のうち、シイタケの菌をオガ粉の塊（菌床）に行きわたらせる工程です。

1年間の菌床シイタケ生産のサイクルの中で、菌床の培養の時期とシイタケを発生させる時期が少しの間重複するため、個人で培養を行う場合、ハウスを効率的に利用できず、生産量を増やすことができません。

他地域の大规模な産地同様、町にも菌床の培養施設があれば、生産者は発生に向けて管理に全力を傾けることができ、良質なシイタケを安定的に生産できます。

このような課題を解決するため、町では地方創生拠点整備交付金事業を活用して菌床培養施設を整備し、町内の農事組合法人に運営してもらうことにしました。これにより、約40,000菌床をこの施設で培養することができ、生産者は発生用のハウス

を効率的に利用できるようになります。さらに、培養が画一的に進められるので、現在の生産量と比較して3割以上の生産量の増加と品質の向上が期待できます。

また、菌床生産と培養を一体的に実施できる本町のシイタケ生産拠点が西林地内に整備されることになり、町の目指す「菌床シイタケの大规模産地化」に向けた取り組みが一步前進します。

現在整備中の菌床培養施設（2月9日撮影）



「しごと」は菌床キノコ栽培。 移住就農を支援します

雪国でも出来る 農業で冬場の所得確保

菌床キノコ栽培は、栽培用のパイプハウス整備や菌床購入費などの初期投資がかさむことに加え、栽培技術の習得のため一定期間の研修が必要なことなどから、新規就農が難しいといわれていました。このことから、町では平成

21年度より菌床栽培用パイプハウスリース事業を開始し、菌床キノコ栽培に取り組みやすい環境整備を進めました。平成29年度までに、ハウス25棟、薪ボイラー4基を9戸の農家と2つの法人に貸し付け、菌床キノコの生産規模拡大に取り組んでいます。

また市場からの需要に配慮されるほどの生産量は確保できていませんが、本町の菌床シイタケは品質が高く評価され、他の産地と比較しても高値で取引されています。十分な研修を積み、しっかりとした技術を身に着ければ、雪国でも農業で冬場の所得を確保することが可能になってきています。

菌床キノコ栽培と移住

平成28年度には、2人の移住者が菌床シイタケ栽培関係

の「しごと」に就きました。家族を含めると8人が移住したことになります。

現在、町には菌床キノコ栽培研修中の移住者や、研修が終わり就農した移住者が複数います。この「しごと」が町に移住するきっかけとなる場合もあり、取り組みやすい環境づくりが町への移住者の増加につながっています。

町の支援が充実 初めてでも始めやすい 菌床キノコ栽培

「移住して就農したい」「就農したいが冬期間の収入が不安」といった相談が毎年数件寄せられます。ときには、町役場農林振興課の担当者や喜多方農業普及所の担当者を交え、移住や就農に関する話し合いを行っています。

そうした話し合いの中で、町の支援が充実し、冬期間にも収入が見込める菌床キノコ栽培が、初めての人のとって取り組みやすく、選ばれるようになっていきます。

育てる楽しみがある反面、やり直しがきかない という緊張感があります。

平成28年に神奈川県から西会津町に移住しました。現在は菌床キノコ栽培の研修中で、三留弘法さんにお世話になっています。就農するきっかけとなったのは、「西会津町は菌床キノコ栽培に力を入れていて、支援も充実しているからやってみないか」と祖母に声を掛けられたことです。それまではIT関連の仕事をしていて、農業とはあまり縁がありませんでした。初挑戦の農業、初体験のキノコ栽培は、やってみて初めて分かることがたくさんありました。そんなとき、役場の人が思った以上に相談に乗ってくれたので、とても助かりました。「農作物を育てる」ということは、育てる楽しみがある反面、やり直しがきかないという緊張感があります。今年の6月に研修が終わるので、そこから自分にとっての本番。自分のできる範囲を見極めながら、頑張りたいと思っています。

Voice 移住就農者の声



だいすけ 根本 大輔さん

(平成28年に神奈川県から移住)



写真=会津きのこ工場の菌床生産作業の様子。ここで生産された約10万個のキノコ栽培用菌床は、秋の収穫時期まで各生産者のハウスで温度や湿度などの管理が行われます。

全国に誇れる菌床キノコの産地へ

町単独事業の菌床栽培用パイプハウスリース事業や、地方創生拠点整備交付金を活用した菌床培養施設整備、林野庁の事業を活用した団地化事業など、町では菌床キノコの大規模産地化に向けた取り組みを計画的に進めてきました。今後も継続して取り組みながら、生産者個々の技術向上も支援し、5年以内に、現在のシイタケ類の年間販売額である約1億円を3倍にまで伸ばしたいと考えています。

また、町では、この大規模産地化に向けた取り組みが新規就農者などの移住・定住につながる、人口減少を緩やかにする効果にも期待しています。家族を含めて30人以上の人口増を目指しており、10世帯が移住・定住して20人が雇用されれば、これまでに移住してキノコ関連の「しごと」に就いている6世帯と合わせると、30人規模の事業所を誘致したのと同じ効果があると考えられます。

豊富な森林資源という地域の特性を生かしながら、就農や栽培に関する支援体制を充実させ、全国に誇れる菌床キノコの産地を目指していきます。

生産規模拡大と通年栽培で雇用を創出し、信頼される産地に

菌床キノコ栽培と雇用

個人での菌床キノコ栽培は家族を労働力とすることがほとんどで、繁忙期だけパートタイマーを雇用しています。雇用される側としては収入が安定しませんが、子育て中の主婦であったり、複数の仕事を掛け持ちしていたり、病気や介護などの理由でフルタ

イムでは働けない人にとっては、無理のないスケジュールで働けるといった利点もあります。また、町内には法人として菌床シイタケ栽培に取り組む「農事組合法人会津きのこ工房」と「株式会社富士ソフト企画」があり、この2社は、今後の規模拡大によりパートタイマー以外の雇用創出を目指しています。



↑シイタケの選別作業を行う富士ソフト企画・西会津しいたけファームの高久香織さん。社員としてフルタイムで働いています。

求められる通年栽培

従業員を雇用すると、当然ですが賃金を支払う必要があります。しかし、冬期間のキノコ栽培だけでは、年間を通じて安定した収入を得ることが難しいといわれています。

先進地である大規模な産地では、収入を確保し雇用を継続するため、夏でも収穫できるように、夏向きの品種を栽培したり、冷房設備を導入したりしています。本町にも冷房設備を導入している生産者はいませんが、人数が少なく、夏場

は生産量が不足している状況です。

1年を通じて良質なシイタケを安定供給できる「信頼される産地」になり、新たな雇用を創出していくためには、夏場の生産体制の強化が不可欠となります。

団地化で通年栽培を目指す

町では、平成30年度に国の補助事業を活用し、1か所に5棟の菌床栽培用パイプハウスを整備する「団地化事業」を計画しています。5棟中3

棟には断熱材と冷房機器を導入し、通年栽培が可能な施設とする計画です。

これにより、1年を通じて菌床キノコを栽培することができ、収入を得る仕組みが整うとともに、施設を運営する法人による正規雇用が期待されます。

また、菌床キノコ栽培の研究施設としての役割も期待でき、研修後の独立による町全体の生産規模拡大が見込まれ、大規模産地化へ向けた取り組みが加速すると考えられます。

フォーカス Focus 今、注目の農業者



県独自の農業生産
工程管理 (FGAAP)
の認証第1号

野原勇一さん (上小島)

生産工程を一つ一つ確認し、消費者が求める「安心・安全」な農産物を生産するため、県では独自の基準を設け、基準を満たした生産者を認証しています。

町内の農事組合法人・会津きのこ工房では、この認証を目指し、研修会などを開催してきました。その結果、野原勇一さんが第1号となる認証を10月17日に受けることができました。現在審査中の生産者もいて、認証生産者を増やしていく予定です。

「キノコを含め、農業生産者全体で認証を受け、産地力を高めていければ」と話す野原さん。農業に対する熱い思いが伝わってきます。



恒例の西会津雪国まつりが2月10日、11日にさゆり公園で開かれ、今年も町内外から訪れた大勢の来場者でにぎわいました。
午後3時に開場となった10日は、福島ゆかりのアーティストによる吹雪とロックの雪上野外ライブ「ホワイトステージ」や、スウェーデントーチ作りの体験コーナー、歳の神、雪上花火が行われまし

た。夜空を彩る雪上花火と、雪の上で燃え上がる歳の神、スウェーデントーチが幻想的な冬の夜を演出しました。
雪国まつりのメインとなる11日は、午前10時のオープニングセレモニーを皮切りに、雪国の伝統工芸品などを使用して競い合う「雪上運動会」や、西会津発のジョセササイズを競技にした「レッツジョセササイズ」、今年で第26回

を数えるメインイベントの「桐ゲタ飛ばし全国大会」、西会津産米や商品券、ミネラル野菜などの豪華賞品が当たるフィナーレイベント「大抽選会」が特設雪だるまステージで行われました。
また、多目的広場では毎年大人気のスノーモービル乗車体験ができる「スノーモービルランド西会津」が、さゆり公園管理棟では昔遊びやボー

ルプールなどが楽しめる「キッズランド」、町内の生産者が作った自慢の加工品が味わえる「食べてみらんしょ西会津！漬物試食コーナー」、冬の健康管理を考える「冬の健康管理・食生活改善コーナー」が、そして体育館では「福島ホープス野球教室」が開催されました。
このほか、出店コーナーの「雪のれん市&うまいもんまつり」では、町内菓子店のスイーツが味わえる「至福のスイーツマウンテン」やこだわりの西会津みそラーメンに加え、県内のグルメが会場に集結し、お目当ての「うまいもん」を求めて買い物客が列を

作りました。
名物のジャンボ雪だるまや滑り台周辺では子どもたちが元気いっぱい走り回り、今年も西会津ならではの多彩なイベントを通して、見て、体験して、遊んで、食べて、子どもから大人まで楽しめる雪国まつりとなりました。

多彩な「イベント」を通して 雪国西会津を満喫

スウェーデン
トーチ作り体験



第28回西会津 雪国まつり

今までにない
発見・創造・出会い



童心に帰って熱中！雪上運動会

踏み俵やむかでスキー、そりを使って競争し勝敗を競いました。大人も童心に帰って楽しんでいました。



丞神デナーがむかでスキーに苦しむ参加者をお助け！



職人技の会場設営

今年も町建設業組合や除雪作業員の皆さんが見事な雪だるまステージと滑り台を作ってくれました。



フィナーレイベント「大抽選会」

番号が書いてあるミカンを拾って抽選。1等の西会津一うまい米1俵は会津若松市の坂本楓さん（右の写真手前）に。



福島ホープス野球教室

今年もプロの選手に直接指導してもらえる野球教室を開催しました。

盛り上がったホワイトステージ

福島ゆかりのアーティストの皆さんが特設雪だるまステージで熱唱。【出演アーティスト】丞神デナー、音速ライン、ひとりぼっち秀吉BAND、三浦コースケ、山岡トモタケ&剛。



ひとりぼっち秀吉BANDは、10日に洋食堂Kでインストライブも開催しました。



野沢宿ミニ雪灯籠まつり

雪国まつりの開催に合わせて、10町内有志会の皆さんが町内に雪灯籠を設置し、そばなどの振る舞いやミニライブを行いました。



福島ホープスの選手
の皆さんも出場！



日本新記録を目指して熱戦！

桐ゲタ飛ばし全国大会

メインイベントの桐ゲタ飛ばし全国大会には、5部門に計69人が出場！日本記録目指して桐ゲタをけり飛ばしました。【各部門優勝者】小学生男子の部＝渡部虎太郎さん（西原）、小学生女子の部＝齋藤遥さん（尾登）、中学生男子の部＝目黒碧唯さん（柳津町）、一般女子の部＝小林世那さん（会津若松市）、一般男子の部＝上原宏さん（会津坂下町）

今年も軽快なトークで盛り上げてくれた「ぺんぎんナッツ」の2人



威勢のよい鏡開きで雪国まつりが開幕

ふるさと振興推進委員会委員長の薄町長と来賓の皆さんが威勢よく鏡開きを行い、雪国まつりが開幕。鏡開きの酒は来場した皆さんに振る舞われました。



埼玉県三郷市のマスコットキャラクター「かいちゃん」と町の「こゆりちゃん」も来場者を楽しませました。



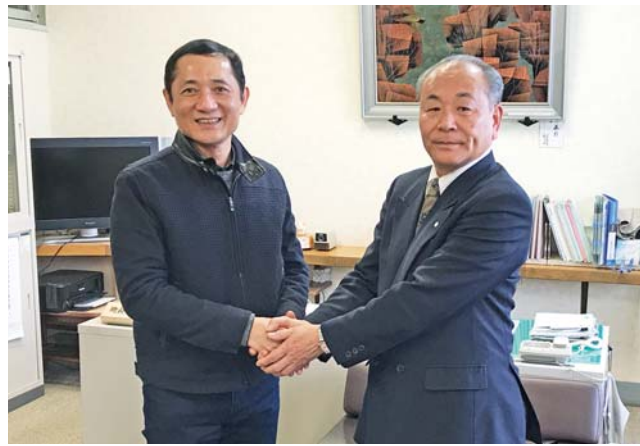
雪灯籠・雪像コンクール 町長賞は今年も4町内会に

雪灯籠・雪像コンクールは、今年も町内団体が製作した力作ぞろいでした。【入賞団体】町長賞＝4町内会、商工会長賞＝10町内会、会津よつば農業協同組合長賞＝西田精機株式会社、森林組合長賞＝野沢地区老人クラブ連絡協議会、福島民報社賞＝群岡地区老人クラブ連絡協議会、福島民友新聞社賞＝下野尻自治区



伝統行事・歳の神

今年も寺前自然塾の皆さんの協力により歳の神が行われました。横浜市鶴見区からツアーで訪れた皆さんも大興奮！



ベトナム大使館から参事官が雪国まつりを訪問 ベトナムにはない雪国文化を体験

2月10日、駐日ベトナム大使館のグエン スアン ティエン参事官・投資促進部長が町長室を訪れ、薄町長と懇談しました。ティエン参事官が町を訪れたのは雪国まつりを視察するため、雪国まつりのオープニングセレモニーにも出席しました。雪上花火や歳の神などを観覧し、ベトナムにはない雪国の文化を体験していました。写真=町長室での記念撮影



慎重に狙いを定め、高得点目指して輪を放つ！ 熱戦！町長杯争奪親善輪投げ大会

2月16日、さゆり公園体育館で第23回町長杯争奪親善輪投げ大会が開かれました。
団体 優勝=黒沢Aチーム、準優勝=上原Bチーム、第3位=上原Aチーム・長寿Aチーム
個人 最優秀選手賞=須藤幸子さん（新郷中央B）、優秀選手賞=渡部カツ子さん（黒沢B）・五十嵐輝夫さん（下野尻A）



3年生が自分の体験をもとに後輩にアドバイス 西会津高で進路体験発表会

進路を決めた3年生が後輩の1・2年生に進路実現までの体験を紹介し、今後の進路決定に役立ててもらうための行事「進路体験発表会」が2月2日、西会津高校で開かれました。当日は5人の3年生が約60人の後輩を前に、各10分間の持ち時間で4年制大学への進学や就職などについてアドバイスしました。1・2年生は身近な先輩の話真剣に聞いていました。



中野区むらおこし実行委員会が参拝客をおもてなし 二年参りで大山祇神社にぎわう

旧暦の大晦日にあたる2月15日から元旦の16日にかけて、大山祇神社は二年参りに訪れた参拝客でにぎわいました。当日は、中野区むらおこし実行委員会の皆さんが参拝に訪れた皆さんのために会津の伝統行事・歳の神を行ったほか、年越しそばや餅などを振る舞いました。大山祇神社は、2年にわたって参拝すると心願成就が果たせると古くから言い伝えられています。



雪国でのホームステイで友情深める

沖縄県大宜味村児童生徒との冬季交流事業

2月9日から11日にかけて沖縄県大宜味村児童生徒との冬季交流事業が行われ、本町の交流団と大宜味村の交流団の皆さんが7月に沖縄県で行われた夏季交流以来、約半年ぶりに再会しました。

9日に行われた歓迎式では、大宜味村の児童生徒らが雪国まつりで沖縄の郷土芸能「エイサー」を披露するお返しとして、西会津小の児童らが会津の民謡「会津磐梯山」の演奏を披露しました。

児童生徒の皆さんは、10日はホームステイ家庭でそれぞれ交流を深め、11日は雪国まつりに参加するなどして雪国の冬を思いきり楽しみました。

11日の午後1時15分から行われたお別れ式では、本町の児童生徒を代表して若林凛々子さんが「これからもこの出会いを大切にしていきたいです」と話し、大宜味村からは仲原望愛さんが「温かく迎えてもらい感謝の気持ちでいっぱい입니다。3日間ありがとうございました」とお別れの言葉を述べました。

文化財防火デー合同消防訓練 文化財を火災から守る

先人が遺した貴重な財産を火災から守るとともに、迅速かつ的確な消防技術の習得を図るため、1月28日に文化財防火デー合同消防訓練が行われました。当日は、観音寺（呼賀）の庫裏から出火した火災が強風にあおられ、本堂への延焼が危ぶまれ始めたという想定のもと、重要物件搬出訓練や応急手当訓練、初期消火訓練、消防団・消防署による放水訓練、消火器と消火栓の取り扱い訓練などが行われ、町および消防関係機関、呼賀・平明地区の住民など約80人が参加しました。

薄町長は訓練後の講評で「本日の訓練を契機に文化財の保護・愛護に取り組み、予防消防のさらなる充実に努めてほしい」と呼びかけました。



ジョセササイズで楽しく雪片し 駒沢女子大学の学生が 除雪ボランティア

駒沢女子大学「アクティ部」の皆さんが2月4日から3日間、本町の小清水地区などを訪れ、田舎暮らし体験や除雪ボランティアを行いました。学生の皆さんは、除雪とエクササイズを掛け合わせた「ジョセササイズ」を提唱する日本ジョセササイズ協会の会員や西会津富士の郷の皆さんのアドバイスを受けながら除雪ボランティアに取り組み、地域住民と交流しました。

地域貢献活動を行うアクティ部の皆さんが本町を訪れるのは今年で4回目で、参加した学生は「(除雪作業は)大変だったけれど、また来年も西会津町を訪りたい」と話していました。写真提供=日本ジョセササイズ協会



社会科の授業の一環で「情報」について学習 5年生がケーブルテレビを見学

2月6日、西会津小5年生の皆さんが社会科の授業の一環で町のケーブルテレビを訪れ、ケーブルテレビが導入された理由やケーブルテレビの仕事について学習しました。(一社)ケーブルネットの大出所長が説明を始めると、5年生の皆さんは時折メモを取りながら真剣に耳を傾けていました。説明の後には、実際の機材を使ってアナウンサー体験を行いました。

西会津更生保護協議会から6人が受賞 福島県更生保護大会で表彰

昨年11月7日に郡山市で福島県更生保護大会が開かれ、町内では次の皆さんが表彰されました。更生保護法人全国保護司連盟理事長表彰=矢部幸彦さん(宮野)、佐藤洋子さん(6町内)、東北地方保護司連盟会長表彰=岩原稔さん(7町内)、東北地方更生保護女性連盟会長表彰=伊勢亀やす子さん(下小島)、佐藤洋子さん(下小島)、福島保護観察所長表彰=高濱秀道さん(8町内)



↑写真は2月6日の西会津更生保護協議会全体研修会にて



カローリングで冬場の運動不足を解消！ 町民カローリング大会で熱戦

2月3日、さゆり公園体育館で第8回町民カローリング大会が開かれました。一般の部18チーム、小学生の部3チームの合計21チームが熱戦を繰り広げ、一般の部は「カメチーム」、小学生の部は「松尾3兄弟チーム」が優勝の栄冠を手に入れました。

町民カローリング大会は、町公民館が冬場の運動不足解消と世代間交流を目的に毎年開催しています。

交通事故が1件でも減少することを願い 今年1年の町の交通安全を祈願

1月28日、大山祇神社で交通安全祈願祭が行われました。当日は、交通安全団体の関係者など約50人が参加し、宮司による神事後、各団体の代表者らが玉串奉奠(ほうてん)を行い今年1年の交通安全を祈願しました。喜多方地区交通安全協会西会津支部の本間義治支部長は、「昨年の交通死亡事故ゼロを今年も継続できるよう、安全なまちづくりを呼び掛けたい」と話しました。





伊藤祐介(徳沢)、齋藤貴子(西林東)、武樋孝幸(大舟沢)、秦千代栄(さゆりが丘)、伊藤優一(屋敷)、岩橋義平(中町)、大竹トヨ子(原)、大出伸男(大久保)、小川美農里(安座)、折笠みゆき(5町内)、佐々木祐子(上野尻)、佐藤延子(宝川)、紫藤眞理子(下野尻)、杉原辰徳(松尾)、鈴木百合子(山口)、津川由紀(西原)、仲川久人(呼賀)、橋谷田淳(2町内)、長谷川タケ子(下野尻)、布施慶久(5町内)、星亨子(4町内)、星

総合計画検討会議委員(敬称略)

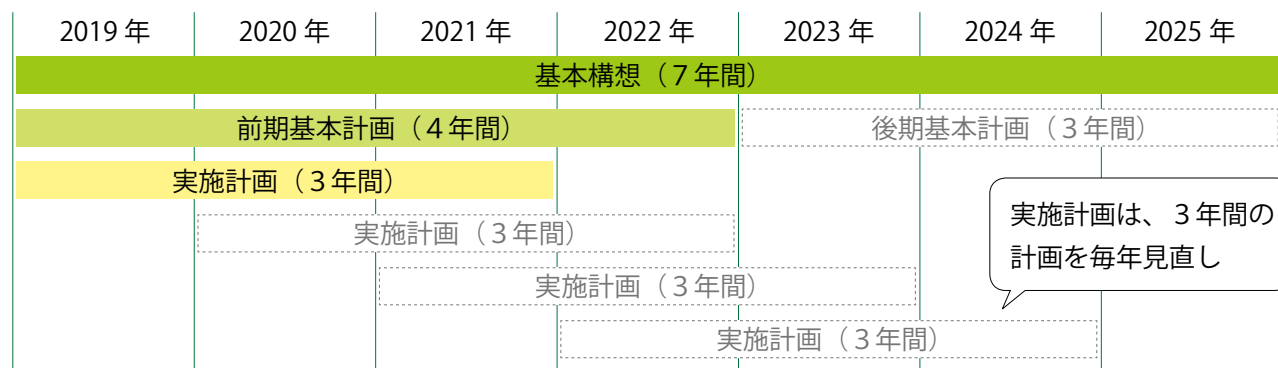


▲代表で委嘱状を受け取る公募委員の伊藤祐介委員

敬介(上野尻)、星光輔(4町内)、本間義治(西林)、室賀英之(菅本)、築田新一(松尾)、八幡修二(芝草)、矢部佳宏(中ノ沢)、渡部晋(縄沢)、渡部照幸(黒沢)



— 総合計画の期間 —



総合計画策定プロジェクトチーム 主任 企画情報課長 矢部 喜代栄

総合計画づくりは、町民が町の未来を考える場です。自分に合った方法で、ぜひ参加をお願いします。

総合計画は、まちづくりを進める上での一番の計画です。まちづくりを家づくりに例えれば、総合計画は完成予想図や設計書だと思います。家づくりでは、工務店や大工さんが住む人の意向を十分に聞いて設計書をつくり、家を建てます。まちづくりも、そこに暮らす人たちの思いを十分に聞くことによって、住む人が望む、住みやすい町になっていくと考えます。

「まちづくり基本条例」では、計画づくりへの町民参加の方法が定められています。「総合計画検討会議」での話し合いをはじめ、「意見公募」や「町民懇談会」など、さまざまな機会を通して町民の皆さんから「こんな町になったらいいなあ」、「こんな取り組みが必要では？」といった意見をいただきたいと思ひます。

自分に合った方法で、ぜひ、計画づくりへの参加をお願いします。

まちづくりの最も基本となる計画
次期「総合計画」の検討作業がスタート



1月24日に第1回西会津町総合計画検討会議が開かれ、本町のまちづくりの最も基本となる計画である次期「西会津町総合計画」の策定作業がスタートしました。会議では、平成31年度を初年度とした7年間の次期総合計画の基本構想と、4年間の前期基本計画の策定を目指し、これから本年12月ごろまで検討作業を重ねていきます。

総合計画とは

総合計画は、町の憲法に位置付けられる「まちづくり基本条例」で定められた「まちづくりの最も基本となる計画」です。まちづくりの指針となる「基本構想」、具体的な取り組みを定める「基本計画」、そして具体的な事業や実施年度、事業費などを定める「実施計画」の3つで構成されています。

1年前倒しで策定

現在の総合計画を策定してから8年が過ぎようとして現在、町を取り巻く社会経済情勢は大きく変化しています。平成27年度からは、人口減少社会に対応するための「西会津町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき取り組みが始まるなど、町の将来像やまちづくりの取り組み

について改めて検討する時期がすでに到来していると考えられます。このことから、町では現行の総合計画(2010「平成22年」)と2019「平成31年」の終了を待たずに、1年前倒しで、平成31年度を初年度とした7年間の次期総合計画の基本構想と、4年間の前期基本計画の策定作業を進めることにしました。

総合計画の策定方法

30人の町民で構成する「総合計画検討会議」と、25人の町職員で構成する「総合計画策定プロジェクトチーム」が連携しながら策定作業を進めてきます。これから6月ごろまで町の将来像と分野ごとの方向性を検討し、その後、分野ごとに取り組んでいくべき具体的な内容を検討することになっています。11月ごろには意見公募と町民懇談会を実施し、12月町議会定例会に提案する流れで進めていきます。

お知らせ
INFOMATION

ケーブルテレビ
さゆりチャンネル
3月の放送案内

- ◆3月町議会定例会
生放送 午前10時～
再放送 午後6時～
※開会日未定
- ◆小・中学校卒業式の生放送
中学校 3月13日(火)
小学校 3月23日(金)
※番組は変更になる場合があります。放送スケジュールはテレビの電子番組表などを参考にしてください。
- 〈問い合わせ先〉
(二社)西会津ケーブルネット
☎45-4461



「お招きしたい！」
トークセッション
十講演会2018



- ◆日時
第2回・3月9日(金)、
第3回・3月23日(金) 各日
午後6時15分～8時15分
- ◆会場
交流物産館よりつせ2階・
研修交流室
- 〈問い合わせ先〉
商工観光課 地域振興係
☎45-2213

生涯学習発表会
(芸能・文化部門)

生涯学習発表会実行委員会では、日頃の活動の成果発表として生涯学習発表会を開催します。入場料は無料ですが、観覧できます。



- ◆日時
3月11日(日) 午前10時～
- ◆会場
町公民館・大ホール
- ◆出演予定団体
◎野沢民舞会(踊り)
◎西会津町謡曲愛好会(謡曲)
◎穂波会(踊り)
◎西会津ダンスサークル(社交ダンス)
◎すこやかクラブ(スポーツ民謡)
◎子ども語り部(民話昔語り)
- 〈問い合わせ先〉
町公民館
☎45-3244

国民年金保険料の
納付相談会

会津若松年金事務所では、国民年金保険料の納付相談会を開催します。納付・免除・付加年金・後納制度・追納・口座振替納付・クレジットカード納付など、国民年金に関することなら何でもご相談ください。

- ◆日時
3月19日、20日、22日、23日
の4日間(各日午前9時～午後4時)
- ◆会場
会津若松年金事務所1階・
国民年金課窓口
- 〈問い合わせ先〉
会津若松年金事務所
☎0242-27-5321

ロータスイン温泉
施設・レストラン
休館のお知らせ

温泉施設の老朽化に伴う改修工事のため、平成30年3月

こゆりちゃん健康
ポイント手帳「ダブルチャンス
抽選会」のお知らせ

町では、楽しみながら健康づくりを継続してもらうため、こゆりちゃん健康ポイント事業を行っています。3か月間記録済みで100ポイント以上貯まっている手帳を対象に、血圧計などの健康グッズが当たる「ダブルチャンス抽選会」を実施しますので、ぜひ応募ください。

- ◆応募期限
3月15日(木)
- ※記録期間は平成29年4月1日～平成30年2月28日
- ◆対象者
18歳以上の町民
- ◆応募方法
3か月間記録済みで100ポイント以上貯まっている「こゆりちゃん健康ポイント手帳」を提出してください。1人3冊まで応募可能です。
- ◆抽選発表
3月上旬に抽選を行い、当

訓練生募集！ポリ
テクセンター会津

ポリテクセンター会津では5月開講の職業訓練の訓練生募集しています。また、施設見学会も行っています。詳しくは問い合わせください。

- ◆訓練生募集
◎募集期間 3月19日(月)～4月18日(水)
- ◎募集訓練科 CAD・NCコース(定員15人)
- ◎訓練期間 5月8日～10月31日までの6か月間
- ◎対象者 公共職業安定所に求職登録している人で、職業訓練の受講が望ましいと判断された人

選者にお知らせします。また、町ケーブルテレビでも当選者を発表します。

弁護士による「B
型肝炎特別措置法」
無料相談会

過去に集団予防接種を受けたことによりB型肝炎を発症した方を対象に、弁護士による特別措置法に基づく給付金の手続きの方法などに関する相談会を実施します。

- ◆日時
3月17日(土) 午後1時30分～4時(受け付けは午後3時まで)
- ◆会場
アピオスペース(会津若松市)2階 研修室・和室
- ※申し込み不要、参加費無料
- 〈問い合わせ先〉
全国B型肝炎訴訟新潟弁護士団 代表 足立定夫
☎025-223-1130

なりすまし詐欺に
注意!!

県内ですすまし詐欺被害が発生しています。不審な電話には応対せず、交番などに相談しましょう。

有料広告を募集しています

紙面に掲載する有料広告を募集しています。詳しくはお問い合わせください。

- ◆大きさ 1枠当たり縦4.0cm×横8.5cm
- ◆掲載料 1枠当たり5,000円/月

<問い合わせ先>
企画情報課・情報政策係 ☎45-4536



NEWS & TOPICS

2月13日に豪雪対策本部を設置しました

北日本上空に強い寒気が入り込んだ影響で、本町においても2月11日から降雪が続き、13日未明に積雪量が150センチメートルに達したことから、町では同日午前9時に豪雪対策本

部を設置しました。屋根の雪下ろしや除雪作業は十分注意しながら行ってください。写真=対策本部の看板を役場正面玄関に設置する薄町長(左)と五十嵐博文町民務課長

以下は有料広告です。詳細は広告主に問い合わせください。



ワークショップなどを通して理解を深める

にしあいづ物語講座PART2



群岡地区 佐藤 泰さん

町公民館では、1月20日に群岡地区、27日に尾野本地区の「にしあいづ物語講座PART2」を開催しました。座学での勉強会だった1回目の「にしあいづ物語講座」とは趣を変え、PART2ではフィールドワークやワークショップなどを通して「地域の宝」である各地域の歴史や文化財について理解を深めました。



▲会場となった西光寺の 住職・岩倉さん



▲屋敷人形芝居道具を使って 解説する土田愛唯さん

20日の群岡地区の講座は上野尻の西光寺で開催しました。住職の岩倉剛士さんから西光寺や西光寺にまつわる文化財についての話を聞いたほか、以前西会津小学校屋敷人形クラブに所属していた土田



▲地区内外から大勢の参加者が 詰めかけました

愛唯さん（西会津中3年）からは、当時のクラブ活動や実際に屋敷人形芝居道具を使っ た人形の動かし方などを聞きました。また、地元の歴史に詳しい佐藤泰さんから上野尻青年会や車峠に関する話を聞くなど、盛りだくさんの講座内容となりました。

講座の最後には、西光寺の中や国指定重要文化財である蒲生氏郷像のレプリカ、屋敷人形芝居道具の見学会が行われ、話に聞いたり写真で見たりしたことがあっても、実際に間近で見ることが少なかった参加者の皆さんにとって大変貴重な機会となりました。



▲楮の皮をたたいて和紙の材料を作ります

27日の尾野本地区の講座は西会津町林業研修センターで、かつて会津藩御用紙としても愛用されていた出ヶ原紙の歴史について学び、実際に和紙を漉くワークショップを行いました。

出ヶ原紙再生プロジェクトに携わり調査・研究を行っている滝澤徹也さんを講師に、紙の原料となる楮の皮を洗ってごみを取り、叩く作業から始めました。叩いて作った紙の材料から、かつて一般的に用いられていた小判サイズの



▲一枚一枚丁寧に漉いていきます

紙を漉きました。それぞれの厚さや繊維の重なりが異なるため、和紙の表情は一つ一つ違い、自分だけの和紙が作れます。

本年度最後となる「にしあいづ物語講座」では、出ヶ原紙について、そして手漉き和紙の製法について学ぶことができる充実した時間となりました。

いつまでも元気で健康に、自分らしく過ごすために

元気なうちから介護予防

介護予防とは、介護が必要な状態にならないように、運動などで身体機能の衰えを予防、回復する取り組みです。「元気だから、介護予防なんてまだまだ」と思っている人も多いかもしれません。しかし、いつまでも元気で健康に、自分らしく過ごすためには、高齢者となってからではなく、中高年のうちからの介護予防が大切です。

介護予防に大切な3つの習慣

- ① 活動的に暮らす
- ② 運動などで身体機能の保持・増進を図る
- ③ 病気やけがを予防する



健康支援係 伊藤孝子保健師長

一人よりも、誰かと一緒に、友人・知人などと一緒に取り組むことで、さらなる効果が

まずは体を動かす

毎日少しの時間でいいので、積極的に体を動かしましょう。運動は、筋肉や骨だけだけでなく、呼吸や心臓にも良い影響を与えます。脳や神経をより良い状態に保つことができるため、食事もおいしく感じられます。



奥川元気クラブ（学習会）の様子

が期待できます。

奥川地区では、地区全体の65歳以上の方を対象に、奥川みらい交流館で「奥川元気クラブ」という介護予防活動を週1回開催しています。毎回の介護予防体操と、学習会・創作活動・ゲーム・レクリエーションなどの週替わりの活動、そして終了後にはお茶会があります。また、月1回、第2水曜日にはボランティアの人の協力のもと昼食会を

施しています。

現在の利用者は11人で、利用者の皆さんからは、「明日、元気クラブがあると、思うと体も心もシャキッとする」「週1回、仲間にあうのが、楽しみ」「いろいろなことができるから、家にばかりいるのは違うよ」などの声があり、みんなで集まって活動することの楽しさが伝わってきます。

また、開催にご協力いただいている協力員の皆さんは、「利用者の方が楽しんで参加する様子に、自分たちも元気をもらっています」と話しており、利用者と一緒に活動することで協力員自身の介護予防にもつながっていることがわかりました。介護予防は、身近な活動でいいのです。趣味のクラブ・老人クラブ活動・サロン・地区の行事への参加など、誰かと一緒に続けてみましょう。

すばい！むし歯のない子



佐藤 結飛くん (徳沢) 伊藤 暖馬くん (西林東) 佐々木 奏太くん (森野) 井上 煌雅くん (森野) 西田 学斗くん (芝草) 鈴木 陽空くん (9町内2)

1月17日、3歳児6人を対象に健康診査を行った結果、むし歯がある子はいませんでした。

戸籍の窓口 (1月受け付け分)

■ まちの人口

	2月1日現在	(前月比)
人口	6,529人	(-29人)
男	3,158人	(-10人)
女	3,371人	(-19人)
世帯	2,687世帯	(-7世帯)

■ ご結婚おめでとう

八島 泰斗	1町内
小瀧 真友	大久保
長谷川 友美	縄 沢
安部 久美子	上野尻

■ お悔やみ申し上げます

渡部 忠昭 (73)	忠寛	父	1町内
鈴木 ミツ子 (85)	義孝	母	1町内
長谷川千恵子 (84)	成男	母	1町内
鈴木 理市 (92)	二瓶二三男	父	6町内
本間 哲衛 (79)	博	父	7町内
根本 誠二 (91)	芳朗	父	9町内1
丹藤 ハツ (95)	上野 榮子	母	9町内2
山崎 義喜知 (91)	正由	父	10町内
高橋 征子 (77)	玄弘	妻	芝草
江川 サク子 (70)	文男	妻	牧
平野 久美子 (62)	良二	妻	安座
野原 キミエ (97)	光次	母	上小島
土田 芳子 (88)	欣一	妻	上野尻
雅楽川 武 (86)	寿和	父	宝川
五十嵐 弘子 (83)	昭	母	滝坂
平野 文雄 (85)	秀儀	父	柴崎
矢部 スミ子 (88)	庄衛	母	向原
矢部 賢二 (86)	正夫	父	中ノ沢
佐藤 榮吾 (79)	真由美	父	極入
小椋 アイ子 (83)	健一	母	弥生
玉木 キクエ (93)	春男	母	小綱木

Dream

聞いて！わたしの夢



[3学年・学年委員]

佐久間 大地さん

◆私の夢——

僕は将来、工業関係の職業に就きたいと思っています。きっかけは、テレビ番組で「日本の技術者はすごい」と耳にしたことでした。自分もそんな技術者の一人になりたいと強く思い、この職業を目指すことに決めました。まだ具体的な職種までは決まっていますが、高校も工業系の学校に進学することが決まり、自分のなりたい職業に向かって頑張りたいと思っています。

◆努力していること——

今は将来に向けて行っていることは特にありません。しかし、高校でたくさんの資格を取り、将来のために頑張りたいと思います。

◆未来の自分に一言——

頑張っていますか。学んだことをフル活用して、どんなことにもチャレンジしていきましょう。

Person

町民バトンタッチ

佐藤 敬さん [柴崎]

◆趣味は？

映画鑑賞

◆自分を一言で表現すると？

明るい

◆あなたのモットーは？

笑顔を絶やさず、誠実に

◆最近感動したことは？

映画を見て感動しました

◆熱中していることは？

毎月のドローンオフ会でのフライト、空撮

◆今後やってみたいことは？

また、海外旅行(グアム)に行きたい

◆次の方を紹介してください

M・Uさん(10町内)

とっておきの物は？

仕事やオフ会でフライトしているドローン。裏磐梯・檜原湖でのフライトで初めて空撮してから、ハマりました。



薄 定雄さん

◆作品名 新雪の朝

◆作品介绍 午前9時ごろ、今まで辺りを覆っていた霧が静かに晴れていくと、新雪が朝の光を受けてゆっくりと輝き始めました。その神秘的な光景に夢中でシャッターを何枚も切りました。これも私の好きな1枚です。

Gallery

町民ギャラリー

今月は、フォトクラブどんぐり・薄さんの作品です。



伊藤 徳裕さん(2月号) から

第4分団の中では若い者同士、これからも頑張っていきたいでしょう。



地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選

その11

文：長谷川 ^{たかお} 隆夫さん

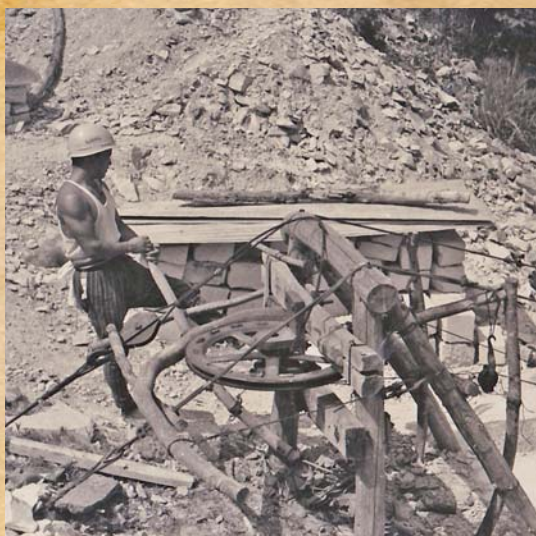
安座の砥石づくり

砥石は、刃物を使う人にとっては無くてはならないものです。特に草刈り作業は、昭和30年代までは鎌を使っていたので、すべての農家で砥石は必需品でした。現在では、農作業や大作業などの機械化が進み、砥石を使うことは少なくなりました。

この砥石の山元（採掘場）が安座にありました。安座の地層の多くは緑色凝灰岩りよくしよくぎょうかいがんであり、その中の砥石層と呼ばれる岩の中から良質の石を採掘するので、場所は限られていました。砥石の山元は、上安座からさらに山道を2こほど登った標高570メートル付近の岩山で、面積は約2ヘクタールの地域でした。

出荷工程としては、地山岩盤から原石を切り出し、一定の大きさに加工したものを一次集積所（荷馬車の使えるところ）まで運搬、そこから加工場へ運んで製品にし、貨車で問屋へ出荷しました。山元から一次集積所までの約1.5こは、土そり（山道に木を並べてそりを走らせるもの）と途中の河床部分は人力で運びました。後にこの区間は索道（鉄索）を架設しました。一次集積所からは荷馬車でそれぞれの加工場まで運びました。

砥石の採掘は、昭和10年頃石川勝吉氏が山元付近で鎌用砥石を作り始め、野沢・尾野本地域の農家に販売していました。自治区の記録によれば、野沢町の宮口七平氏が昭和11年から10年間の契約で採掘を始め、その後、安座の石川勝吉氏、佐川一氏、斎藤要氏、野沢の渡部氏、小柳氏、阿部氏などが採掘を継続し、平成7年に石川吉年よしとし氏が高齢のため採掘をやめたことで、安座の約60年に及ぶ砥石採掘の歴史は幕を閉じたとあります。（一部石川吉年氏からの聞き取り）



↑砥石の採掘場での作業の様子（昭和30年代ごろ）



↑砥石の採掘跡



今月の表紙

今月の表紙は、雪国まつりの初日に行われたホワイストステージから。辺りが暗くなり、気温がぐっと下がりはじめた午後6時過ぎ、山岡トモタケ&剛のステージでは、歌声とともに白い息が夕闇に浮かびました。

編集後記

今年もさまざまなイベントで盛り上がった西会津雪国まつり。今月号にフォトギャラリーを掲載していますので、来場できなかった皆さんにも当日の雰囲気を楽しんでいただけたらうれしいです。

ちなみに、この2日間で私が撮影した写真はなんと1186枚！そのうち広報紙に使用した枚数は38枚…。実に148枚もの写真がお蔵入りなんです。でも、良さそうなお写真はいつも数枚なので、このくらい撮らないと心配で心配で。えっ？もっと必要？

心配性のカメラ小僧 長谷川 祐一